

## 60 火防ぎ延命地藏

伝承地：泉町4-30 (延命院)

話者：19 参考書籍：1



(延命院の火防延命地藏)

藤原宗円が、大仏師定朝作の延命地藏立像を比叡山から奉持してこの地藏尊を本尊とする寺を城内に建立し、これが現在の延命院のおこりであると伝えられている。この延命院は、江戸時代に城内から日光街道沿いに移され、現在に至っている。

古代から木造を建築の主体とする日本では火災が生活をおびやかす最大の敵である。宇都宮を全焼させた安永2年(1772)の大火は西原から出火して41町を焼きつくした。天保3年(1832)、明治元年(1868)の戊辰の役、昭年20年の空襲、いずれの場合も地藏堂だけは類焼をまぬがれた。いつの間にか地藏堂の石屋根(現瓦葺)に乗って箒を手に火の粉を箒き下していた「小さき僧」が防いでくれたのであった。今昔物語などで伝えられている地藏の化身「小さき僧」の伝説と全く同類のことが起こったのである。



## 61 藤原利仁の悪者退治

伝承地：大網町



(寅巳山)

市の北部山間地域には、鎮守府將軍の藤原利仁が、藏宗、藏安の両兄弟の賊を平定したという話が残っている。

大網町、飯山町の各々の高藏山、寅巳山に伝わるものであるが、いずれも高座山と称し、次のような内容のものとなっている。

平安時代の初めごろ醍醐天皇の御代に藏宗、藏安と称する兄弟がおりました。二人の兄弟は、約1000人の手下を従えて高座山に

住み、山の下部落を荒らし回っていました。村の人たちが困っていると、鎮守府將軍の藤原利仁は、朝命を受けて賊の追討に向かいました。ところが、賊の力が大変強く、容易に平定できません。そこで、村の人たちも協力してようやく賊を退治することができました。この後、村の人たちは、安心して毎日の仕事にいそしむことができたということです。

